

階が浸水した。

そのほかに、宮崎県北方町で橋梁が押し流された高千穂鉄道は全線が不通となった。

一方、延岡市では、五ヶ瀬川の急激な水位上昇に耐えきれず、古川排水機場が運転停止を余儀なくされた。

土砂災害も宮崎県内だけで139箇所あり、死者13人のうち、11人が土砂災害で亡くなっている。土砂災害が発生した地域は、高千穂町、五ヶ瀬町、椎葉村、美郷町などで、長時間にわたって大量の降



▲浸水した北川郵便局
〔写真提供／宮崎県北川町〕



▲橋脚を残して流失した高千穂鉄道の第一五ヶ瀬川橋梁（宮崎県北方町）
〔写真提供／読売新聞社〕

インタビュー i n t e r v i e w



澤 紀仁氏
●宮崎県北川町
総務企画課長



矢野 恵朗氏
●宮崎県北川町
消防主任

情報不足で犠牲になるのは住民

——住民がイメージできる情報を防災行政無線で確実に伝える——

過去に数々の水害に見舞われてきた宮崎県北川町では、「災害時に最も重要なのは情報」という観点から各戸に防災行政無線を配備。その防災行政無線が、台風14号襲来時にも活躍した。当時の状況について、同町総務企画課長の澤紀仁氏と消防主任の矢野恵朗氏に伺った。

●防災行政無線のメリットは？

災害時には、情報の有無が町民の命運を分けます。言い換えると、情報不足が住民の命を奪うことになるわけです。

広報車や連絡網など情報の伝達手段は様々ですが、「住民に確実に情報を伝える」という点では、防災行政無線に勝るものはないと思っています。住宅の室内に個別配備されているので、雨音がすごくても雨戸を閉めていても確実に聞き取ることができます。

特に北川町の場合は、毎年のように内水や浸水被害が発生しており、長年の経験から町民の方々は浸水被害の発生しやすい地域を把握しています。そのため、行政がこまめに情報を発信してさえいれば、住民の方々は災害に対して適切かつ主体的な行動

をとることができるのです。

実際に、今回も防災行政無線の情報に基づいて、多くの方々が自主的に避難されました。

また、停電時に乾電池でも稼働する防災行政無線については、台風が来る2日前に電池の交換を呼びかけています。

●無線記録を見ると、「舞見田前の町道が冠水しました」など内容が非常に具体的です。これらの情報はどのように収集されたのでしょうか。

基本的には、水防上重要と思われる町内各地に派遣した役場の職員から逐次もたらされる情報を基本として、河川の水位計や雨量などのデータに基づいて放送内容を決めています。

●情報を伝える上で、心がけていることは何ですか。

情報は、水位や雨量などの数値だけを伝えるのではダメです。なぜなら、住民の方々にとって数値から被害をイメージすることが難しいからです。

雨が降ったことによって、どのような現象が起こっているのか、何が起こっているのかを把握し、それを「イメージできるような具体的現象」として伝えることが大事です。

そうすれば、住民の方々により“わかりやすく”危険度をお知らせすることができるとともに、住民の方々が適切かつ主体的な避難活動を行うための判断材料になると思います。